

シッケンズ木材保護塗料

屋外用セトールシリーズ 施工説明書

- セトール H L S e（新タイプ）
- セトール Filter7 プラス
(フィルターセブン)
- セトール T G L
- セトール ノバテック
- セトール デッキ
- セトール デッキ プラス

この施工説明書はシッケンズ木材保護塗料の正しい施工方法とメンテナンス、保管方法について記載してあります。

製品の機能を十分に発揮させるために、施工前に必ずお読みください。

- 木材保護に理想的な通気性と柔軟性があります。
- 木目を鮮明に映し、木材に高級感を与えます。
- 撥水性、高い耐候性を発揮します。
- 防腐防カビ剤配合

総輸入／総発売元

トーヨーマテリア株式会社

シッケンズ課

〒107 - 8320

東京都港区赤坂 7 - 6 - 38

TEL : 03 - 5563 - 8267

FAX : 03 - 5563 - 8270

www.toyomateria.jp/sikkens

特長・用途

塗膜の機能、仕上がり感などが異なる製品を取り揃えておりますので、用途やお好みに応じて選択してください。

製品名	用途	塗膜厚	光沢度	色数
セトール HLS e	屋外木部全般 壁、破風、窓枠、ドア、 デッキ、遊具など屋外の あらゆる木部に最適	薄い塗膜 (浸透タイプ)	中間光沢	10色
セトール Filter7 プラス	屋外木部 壁、破風、窓枠、ドアなど セトールHLSの上塗りまたは メンテナンスにも最適 中間光沢で上品な仕上がり	厚めの塗膜	中間光沢	5色
セトール TGL	屋外木部 軒天、ポーチ柱、ドアなど 直射日光に常時さらされる 箇所には適さない	厚めの塗膜	プラス 高光沢 サティン 中間光沢	1色 (クリアー)
セトール ノバテック	屋外木部 壁、破風、軒天など 環境にやさしい低溶剤型 2回塗り仕上げ	比較的厚い 塗膜	中間光沢	6色
セトール デッキ	屋外ウッドデッキ専用 ベンチ、テーブル、 遊具などにも最適 耐摩耗性に優れる	比較的厚い 塗膜	中間光沢	1色 (ナチュラル)
セトール デッキプラス	屋外ウッドデッキ専用 特に床部分の保護、 滑り止めに最適 耐摩耗性に優れる	比較的厚い 塗膜	中間光沢	1色 (ナチュラル)

- ・樹種や表面状態により仕上がりは異なりますので、事前にお試し頂くことをお勧めします。
- ・セトールHLS e 000 クリアーとセトールTGLの無色透明仕上げは、着色仕上げに比べて耐候性は低下します。耐候性を優先される場合は、着色仕上げをおすすめします

標準塗布量

製品名	標準塗布量	標準塗布面積
セトールHLS e	65～75g/m ² /1回塗り	約16 m ² /L/1回塗り
セトールFilter7プラス	70～80g/m ² /1回塗り	約16 m ² /L/1回塗り
セトールTGL	90～100g/m ² /1回塗り	約12 m ² /L/1回塗り
セトールノバテック	60～70g/m ² /1回塗り	約18 m ² /L/1回塗り
セトールデッキ	75～85g/m ² /1回塗り	約15 m ² /L/1回塗り
セトールデッキ プラス	80～90g/m ² /1回塗り	約15 m ² /L/1回塗り

- 樹種や木材表面の状態により塗布量は大きく変動します。時間の経過した木材や表面が荒れている場合は著しく塗布量が多くなることがあります。
- 2～3回塗りが標準です。優れた耐候性を得るためには3回塗りすることをおすすめします。セトールノバテックは合計2回塗りが標準です。
- セトールFilter7プラス、セトールデッキ、セトールデッキプラスの下塗りには、セトールHLS eを使用してください。

基本塗装仕様

下地調整	下塗り	乾燥	上塗り	乾燥	上塗り	乾燥
サンディング (#120～#180) 素材の汚れ、 油等を除去する。 木材含水率は 20%以下。	よく攪拌する。 刷毛塗り 木目にそって うすく伸ばす。	よく乾燥 させる。 拭き取り 不要。	よく攪拌する。 刷毛塗り 木目にそって うすく伸ばす。	よく乾燥 させる。 拭き取り 不要	よく攪拌する。 刷毛塗り 木目にそって うすく伸ばす。	よく乾燥 させる。 拭き取り 不要
		重ね塗り可 16～24 時間 (20℃)		重ね塗り可 16～24 時間 (20℃)		

製品別塗装仕様

下地調整、乾燥時間、塗装方法は上記の**基本塗装仕様**をご参照ください。

・セトル HLSe

下地調整 **セトル HLSe** 乾燥 **セトル HLSe** 乾燥 **セトル HLSe** 乾燥

※下塗り乾燥後、必要に応じて表面を軽くサンディング(#240～#320)、毛羽立ちを除去してください。

・セトル Filter7 プラス

下地調整 **セトル HLSe** 乾燥 **セトル Filter7プラス** 乾燥 **セトル Filter7プラス** 乾燥

※下塗り乾燥後、必要に応じて表面を軽くサンディング(#240～#320)、毛羽立ちを除去してください。

・セトルノパテック

下地調整 **セトルノパテック** 乾燥 **セトルノパテック** 乾燥

・セトル TGL

(プラス・サティン共通)

①クリアー仕上げ

下地調整 **セトル TGL** 乾燥 **セトル TGL** 乾燥 **セトル TGL** 乾燥

②着色ツヤ出し仕上げ

下地調整 **セトル HLSe** 乾燥 **セトル TGL** 乾燥 **セトル TGL** 乾燥

※下塗り乾燥後、必要に応じて表面を軽くサンディング(#240～#320)、毛羽立ちを除去してください。

※お好みに応じてセトル HLSe を 2 回～3 回塗りすることも可能ですが、過度の厚膜は通気性の妨げになる可能性がありますので、上塗り（セトル TGL）の回数にご注意ください。

・セトルデッキ

下地調整 **セトル HLSe** 乾燥 **セトルデッキ** 乾燥 **セトルデッキ** 乾燥

※下塗り乾燥後、必要に応じて表面を軽くサンディング(#240～#320)、毛羽立ちを除去してください。

・セトルデッキプラス

(防滑機能あり)

下地調整 **セトル HLSe** 乾燥 **セトルデッキプラス** 乾燥 **セトルデッキプラス** 乾燥

※下塗り乾燥後、必要に応じて表面を軽くサンディング(#240～#320)、毛羽立ちを除去してください。

- ・3 回塗りが標準です。2 回塗り仕上げも可能ですが、3 回塗りに比べ耐候性は低下します。
- ・セトルデッキプラスは防滑機能を発揮させるため、上塗りは 2 回が標準です。
- ・セトルノパテックは 2 回塗りが標準です。

施工上の注意

- **必ず乾燥した素材に塗ってください。** 木材の含水率は 20%以下が目安です。
- **雨天の塗装は避けてください。** 素材の表面が濡れていると塗料の浸透性、塗膜の形成を著しく妨げます。また乾燥時間や仕上がりにも影響することがあります。
- 直射日光が当たる場所で木材表面が熱くなっているとき(表面温度 35℃以上)は塗らないでください。また気温 5℃未満の場合も塗らないで下さい。
- 使用するときは容器のフタに手を添えて開け、塗料を底から十分かき混ぜて均等にしてください。白い顔料は沈降しやすいため、入念に攪拌をしてください。
- 塗装前に木材表面の汚れ、ゴミ、ホコリ、油分、カビなどは取り除いてください。
- 吸い込みの違いによる色ムラを防止するために、木材表面をサンドペーパー(#120～180)で研磨してください。セトールHLS e 000 クリアーを下塗りすることで、多少吸い込みムラの防止にも効果があります。
- 原則として希釈は不要ですが、粘度が高くて塗りにくい場合は、塗料用シンナーまたはペイント薄め液で希釈することができます(5%以内)。
- 塗装前、他の部分に塗料が付着しないようにマスキングテープなどでしっかり養生してください。塗料が付着した場合は、塗料用シンナーで速やかにふき取ってください。
- 屋外用塗料は有機溶剤を含んでおりますので、草花、動植物、食物が隣接する場所での塗装は避けてください。
- 塗装する際は**木目に沿って塗装してください。**
- 刷毛ムラ、ダレが発生しないように注意しながら塗ってください。
- 継ぎ目の部分など塗り残しがないように均一に塗ってください。
- 木口の部分は塗料を良く吸い込むので、ダレないようにたっぷりと塗ってください。
- **重ね塗りの際は必ずよく乾燥させてください。** 乾燥時間は気温、湿度、通風、木材の種類などによって大きく異なります。
- 必要以上に塗り重ねしないでください。また、一度に厚塗りしないでください。塗膜の通気性が損なわれてしまう可能性があります。
- 仕上がりの色調は、木材自体の色調、塗り回数、塗料の吸い込み具合などによって異なります。**塗装前に試し塗りをしてください。**
- 使用後の用具は塗料用シンナーでよく洗ってください。
- 作業場所は換気をよくしてください。

＜刷毛の選択について＞

含みの良い、腰のある刷毛を使用してください。刷毛によって塗料の含み・吐き出しの程度が異なります。セトールHLS eは浸透性が強く、その他の製品も多少粘度が高いため、含みが良く、腰の強い刷毛（大塚刷毛製造の「**塗来**」(ニス用)等）をお薦めします。

[刷毛の推奨メーカー(問い合わせ先)]

会 社 名：大塚刷毛製造株式会社

住 所：東京都新宿区四谷4-1

T E L：03-3357-4316

F A X：03-3357-5557

ホームページ <http://www.maru-t.co.jp>

素材による 対応

ヤニを多く含む木材

塗装前に木材表面からヤニが噴き出している場合は、アルコールや塗料用シンナーなどで完全に取り除いてから塗ってください。また、塗装後、塗膜表面上にヤニが噴き出すことがあります。ヤニが完全硬化した後にヘラ等で取り除いてください。

加圧注入防腐処理材

よく乾燥させてから塗装してください。処理剤の色によっては仕上がりの色調が異なりますので事前に試し塗りをしてください。防腐処理材に起きがちな干割れを防止します。

木材中の成分による乾燥遅れ

ハードウッドへの塗装は乾燥に時間がかかる場合があります。チーク、ケヤキは特に注意が必要です。イロコやカリンなど抗酸化物質を含む木材の場合も乾燥が遅くなることがあります。また、水溶性樹脂分を含む木材は滲みが発生する可能性があります。

色ムラが多い木材

吸い込みの違いによって色ムラが発生しやすい樹種があります(桧・松・ツガなど)。塗装前にサンディングにより均すか、場合によってセトールHLS e 000 クリアー を下塗りすることで多少吸い込みムラを抑える方法があります。下塗りを着色で塗装した場合に比べて色調は薄くなります。事前に試し塗りをしてください。

その他

デッキ・階段の床面、ベンチの座面部分の塗装

セトールFilter7 プラス、セトールTGL、セトールノバテックは、デッキ床面やベンチには不向きです。セトールHLS e またはセトールデッキを使用してください。

ウッドデッキのノンスリップ工法（新規塗装の場合）

下地調整 — セトールHLS e — 乾 燥 — セトールデッキ プラス — 乾 燥 — セトールデッキ プラス — 乾 燥

* 防滑機能を維持するため、定期的なメンテナンスをおすすめします。

他メーカーの塗料の上に塗る場合

ステイン系(含浸型塗料)

塗装後 2～3 年経過した他社のオイルステイン系塗膜の上に、シッケンズを上塗りする場合、シッケンズの浸透性、付着性が発揮できない可能性があります。サンドペーパー(#80～120)で研磨して木材表面に残っている顔料成分をしっかりと取り除いたうえで、事前に付着性などの確認を行ってください。

ウレタン・エナメル系(造膜型塗料)

付着性が発揮できないため、サンドペーパー(#60～120)で入念に研磨するか、塗膜剥離剤を使用して完全に取り除いてください。その後、新規塗装と同様に塗装してください。

新しい塗膜を除去する場合

塗膜が乾燥した後、やむなく除去する必要がある時には、サンドペーパー(#60～120)で入念に研磨するか、塗膜剥離剤、洗浄剤を使用して取り除いてください。

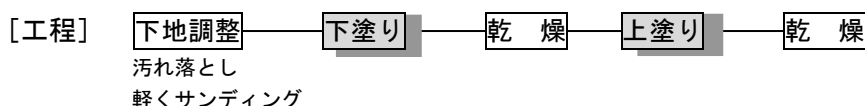
メンテナンス

塗膜の傷み具合は、経過年数、建物の構造、立地条件、方角、樹種等により多様です。素材をいつまでも美しく維持するためには、適切な判断のうえ、早期に**定期的**に再塗装をすることをおすすめします。

シッケンズの旧塗膜が木材表面にしっかり定着している場合は、塗膜を完全に落とさなくても、そのまま上塗りすることが出来ます。

軽度の傷み — 光沢感が減少、色褪せ程度で塗膜はまだしっかりした状態

再塗装方法：塗膜を剥離しないで、表面の汚れ落とし、軽くサンディングした後、しっかり定着している塗膜の上に全体を1～2回上塗りする。

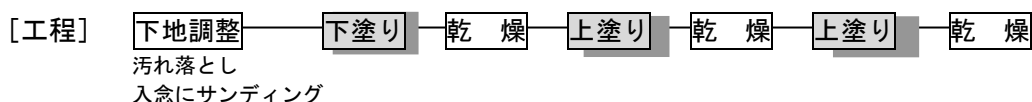


※ 下地処理の詳細は、次ページの**下地処理方法A**をご参照ください。

- 前回塗装をしたときと同じ色または多少濃い目の色を使用することをおすすめします。
- 全体的に塗膜がしっかり残っている場合や、セトールデッキやセトールFilter7プラスなど厚膜タイプの製品で仕上げている場合は、特にセトールHLS e（下塗り）をせず、上塗りのみの施工でも可能です。

中程度の傷み — 塗膜の剥離が進行し、木材表面が露出している状態

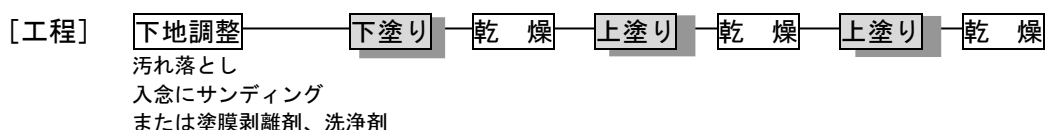
再塗装方法①：活膜（しっかり定着している塗膜）はそのまま生かして、塗膜が剥離している部分の下地処理を入念に行う。全体を2～3回塗りする。



※ 下地処理の詳細は、次ページの**下地処理方法B**をご参照ください。

- 活膜部分と塗膜脱落部分のムラが生じる可能性があります。塗膜脱落部分に1～2回タッチアップ（下塗り・色合わせ）し、その後全体を1～2回塗りする方法もあります。木材素地が傷んでいる箇所は吸い込みにより色が濃く出る場合があります。
- 全体を塗装する場合は、既存の塗膜（活膜）と同じ色または多少濃い目の色を使用することをおすすめします。濃い目の色により色ムラを目立たなくする効果があります。

再塗装方法②：旧塗膜を全て剥離、木材表面を完全に露出させる。新規塗装と同様に全体を2～3回塗りする。



※ 下地処理の詳細は、次ページの**下地処理方法BまたはC**をご参照ください。

- お好みに応じてどの色でも使用することが出来ます。
- 下地処理に薬剤を使用する場合は、薬剤成分が残らないように注意してください。

メンテナンス

下地処理方法

A) 旧塗膜を剥離しないで、定着している旧塗膜の上に塗装する場合

1. 塗料用シンナーなどで、汚れ、付着物、油分などをしっかり取り除く。
2. 必要に応じて水洗い、汚れをしっかりと取り除く
3. しっかり乾燥させる(3日間以上)。含水率は20%以下が目安。
4. 木目にそって塗膜表面を軽めにサンディング(#80~120)。
5. サンダー屑、ゴミ、ホコリをしっかりと取り除いて木材表面をきれいにする。

B) 劣化した旧塗膜を部分的に、または全体的に剥離する場合(サンディング)

1. 塗料用シンナーなどで、汚れ、付着物、油分などをしっかりと取り除く。
2. 必要に応じて水洗い、汚れをしっかりと取り除く(薬剤を使用する場合、木材表面に薬剤成分が残らないように水で洗い流す)。
3. しっかり乾燥させる(3日間以上)。含水率は20%以下が目安。
4. 木目にそって塗膜表面をサンディング(#80~120)、下地の毛羽や劣化している旧塗膜をしっかりと取り除く。塗膜を剥離する場合は入念に行う。
5. サンダー屑、ゴミ、ホコリを取り除いて木材表面をきれいにする。

C) 旧塗膜をすべて剥離する場合(剥離剤使用)

1. 塗料用シンナーなどで、汚れ、付着物、油分などをしっかりと取り除く。
 2. 塗膜がしっかりと残っている場合は、ケストル(塗膜剥離剤)を塗布し、旧塗膜を取り除く(木材表面に薬剤成分が残らないように水で洗い流す)。
 3. ステントルを塗布し、木材内部に浸透している顔料などをしっかりと取り除く。汚れやアクなどはアクロンABを使用。(木材表面に薬剤成分が残らないように水で洗い流す)。
 4. しっかり乾燥させる(3日間以上)。含水率は20%以下が目安。
 5. 木材表面を入念にサンディング(#80~180)、落ち切らなかった顔料、汚れや下地の毛羽などをしっかりと取り除く。
 6. サンダー屑、ゴミ、ホコリを取り除いて木材表面をきれいにする。
- ※ 工程3の後、必要に応じてレブライ(シミ抜き)およびノーベル(カビ取り漂白)を使用してください。
- ※ 塗膜が殆ど無い場合は、工程2は省略することも可能です。

[剥離剤・洗浄剤の推奨メーカー(問い合わせ先)]

会 社 名：株式会社ミヤキ

住 所：福岡県福岡市中央区大手門1-2-23

T E L：092-713-0001

F A X：092-741-8606

ホームページ <http://www.miyaki.com>

安全衛生上の 注意

緊急処置

- 目に入った場合には多量の水で洗い、出来るだけ早く医師の診断を受けてください。
- 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 皮膚に付着した場合には多量の石けん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化があるときは医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合には、石油系溶剤・防腐防カビ剤を含有していることを告げて、出来るだけ早く医師の診断を受けてください。

取扱注意事項(環境・衛生面)

- 火気のあるところでは塗らないでください。
- 溶剤の蒸気を吸入しないよう、目に入らないよう、皮膚に触れないよう、保護マスク、保護メガネ、保護手袋、作業着などを着用し、注意して取り扱ってください。
- 有機溶剤が含まれているので、塗装中・乾燥中とも十分に換気をしてください。
- 次の人は取り扱いわないでください。
 - ・ 本人または血族の方が、ジンマシン、かぶれ、気管支喘息、へん頭痛、アレルギーなどをおこしやすい体質を持っておられる方。
 - ・ 体の調子が悪い方、睡眠不足、二日酔い、高熱のある方、妊娠されている方
- 犬小屋や鳥カゴ、その他ペットなどがなめたり、かじったりするような木部には使用しないでください。
- 食品や食器が置かれるところには使用しないでください。
- 塗料が木部以外にかかった場合には、中性洗剤で洗った後、十分水洗いしてください。
- 塗料が草木などの植物にかからないよう、また金魚や鯉などの魚類がいる池などに入らないように注意してください。
- 取扱い後は必ず手洗い、うがいを十分に行ってください。
- 乾燥後も衣服や洗濯ものが擦れたりすると汚れることがありますので、乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- 容器は塗料を使い切ってから捨ててください。

保 管

- キャップの中のボール紙は捨てないようにそのまま入れた状態で、キャップを容器にしっかりとめ込んでください。密閉したことをしっかり確認してください。
- 残量が少ない時には小缶に移し替えて保管してください。ポリ容器等での保管はできません。また、セトールHLS eは水分を含むため、スチール缶の場合は錆びが発生する可能性があります。ガラスビンの使用も可能です（ゴム製パッキン等は溶解注意）。
- 密閉の後、幼児の手の届かない冷暗所で保管してください。
- 保管時の温度は5℃～30℃が目安です。極度に低い温度の場合は、塗料粘度が上がったり、セトールHLS eの場合は成分中の水分が凍結する可能性があります。
- 塗料の表面に膜が出来たとき（皮張り）は、膜を除去したうえで使用してください。
- 火気厳禁(第四類、第2石油類、危険等級Ⅲ)です。
- 一度開封した塗料は長期間の保管を避け、できるだけ早く使い切ってください。

製造元：アクゾノーベル デコラティブ ペイント社 サッセンハイム オランダ